

高等部教育目標	
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う	
探究型カリキュラム教育/学習目標	
SDGsの達成を目指し、Mastery for Serviceを体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける	
探究型カリキュラムにおける5つの学びの方針 Five Principles for Learning	
1. 自分事として    2. 社会/実践を通して    3. 知識を大事に    4. コミュニケーションを通して    5. 生徒・教員が共に <オーナーシップ/一人称>    <PBL型/アクション>    <自ら得る知識/高める関心>    <自分/他者のやりとり>    <共に探究する関係性>	
AIの学習目標	
SDGsの達成に向け、社会で利用されているAIに関する見識を広げ、AI活用スキルを身につける	
1. 社会でAIが活用されている事例を知り、AIの役割や機能を語ることができる 2. AIの様々な側面を理解したうえで、AIの活用法について議論できる 3. AIを活用してSDGsの各課題の解決案を提案することができる	

授業日	4/12(火)	1学期授業回数	1回目 / 全9回												
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「AI活用とは・・・である（AIに出来ることできないこと）」と自分の言葉でAIのイメージを語る事が出来る。</li> <li>・今後実施する学びの記録/様々なグループワークやプレゼン、シンキングツールなどについて触れる。</li> </ul>														
時間 授業内容	45 5 10 30	3科目合同オリエンテーション  学びの記録について再度解説 「ドローンとAI」に関わる動画2本を視聴 個人ワーク：AIのイメージを書き出す ペアワーク：シンキングツールを用いてイメージを共有する ポスターセッション：1枚のカードにまとめた共有したイメージをポスターセッション形式で他者に発表する まとめ：「AI活用とは・・・である」という1文を作成して提出													
評価方法	学びの記録 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>知識/技術</th> <th>意見/考察</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>自分の観点を持って内容を処理、記述している。 情報がしっかりと整理されている。</td> <td>知識と知識/意見/考察が有機的につながる記述が多くみられる。 深い洞察とクリエイティブな広がりが見られる。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>内容がある一定程度処理、記述している。 ある程度情報が整理されている。</td> <td>多少有機的な考察が見られる。 多くが短絡的・表層的な感想や意見、疑問にとどまっている。</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>情報の量/質が不十分である。 情報が整理されておらず羅列になっている。</td> <td>感想や意見、疑問の量/質が不十分である。</td> </tr> </tbody> </table>				知識/技術	意見/考察	A	自分の観点を持って内容を処理、記述している。 情報がしっかりと整理されている。	知識と知識/意見/考察が有機的につながる記述が多くみられる。 深い洞察とクリエイティブな広がりが見られる。	B	内容がある一定程度処理、記述している。 ある程度情報が整理されている。	多少有機的な考察が見られる。 多くが短絡的・表層的な感想や意見、疑問にとどまっている。	C	情報の量/質が不十分である。 情報が整理されておらず羅列になっている。	感想や意見、疑問の量/質が不十分である。
	知識/技術	意見/考察													
A	自分の観点を持って内容を処理、記述している。 情報がしっかりと整理されている。	知識と知識/意見/考察が有機的につながる記述が多くみられる。 深い洞察とクリエイティブな広がりが見られる。													
B	内容がある一定程度処理、記述している。 ある程度情報が整理されている。	多少有機的な考察が見られる。 多くが短絡的・表層的な感想や意見、疑問にとどまっている。													
C	情報の量/質が不十分である。 情報が整理されておらず羅列になっている。	感想や意見、疑問の量/質が不十分である。													

次回の3分間プレゼンのルーブリック（事前に提示）

観点	説明	A	B	C
目的	プレゼンテーションの目的を聞き手に伝えられたか	プレゼンテーションの目的を明確に相手に示し、聞き手に伝わったことを確認できた。	プレゼンテーションの目的を聞き手に示す部分があった。	プレゼンテーションの目的を聞き手に示せなかった。
論点	プレゼンテーションの論点が明確であったか。	発表の目的に沿った論点が明確に説明されていた。	発表の目的に沿った論点が表示される部分があった。	発表の目的に沿った論点が表示されなかった。
考察	考察が示されていたか。	動画の内容に沿った自分なりの考察が3か所以上示されていた。	動画の内容に沿った自分なりの考察が1, 2か所示されていた。	動画の内容に沿った自分なりの考察がなかった。
スライド	分かりやすく作られていたか。	全ページがキーワード・キーフレーズのみで作られていた。	キーワード・キーフレーズのみで作ることに配慮していたページもあった。	多くのページでキーワード・キーフレーズのみで作ることに配慮していなかった。
	見やすく作られていたか。	全ページでフォント・色使い、余白などに配慮していた。	フォント・色使い・余白などに配慮していたページもあった。	多くのページでフォント・色使い・余白などに配慮していなかった。
スピーチ	姿勢・表情・視線・ジェスチャーなど非言語的に表現が適切に用いられていたか。	聞き手の反応を確認しつつ、姿勢よくアイコンタクトも用いていた。	良い姿勢やアイコンタクトなどを取ろうと努めていた。	うつむきがちで聞き手の反応を確認する様子があった。

チェックリスト（形式）

- 表紙にタイトル、学年、クラス、番号、名前、発表日時を記載している。
- 発表時間の3分の±10%におさまっている。（練習をした結果）

宿題指示

- ・ 学びの記録を翌日の昼までに提出
- ・ AI 入門講義動画「第1講：AI と AI 活用人材」「第2講：AI が活用される社会」を観て、ペアでどちらか1つの発表資料（3分間）を作成する

授業日	4/19(火)	1 学期授業回数	2 回目 / 全 9 回												
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ AI 活用人材とは何か、AI を取りまく環境（Society 5.0/第4次産業革命）について理解し、語るができる。</li> <li>・ ルーブリックを理解し、プレゼンテーションを行うことができる</li> </ul>														
時間	5	学びの記録のフィードバック													
授業内容	10	ルーブリックの確認・自分の発表の練習													
	15	ルーブリックを用いて互いの発表を評価し、フィードバックを行う													
	15	「AI 活用人材とは・・・」、「AI を取りまく環境とは・・・」という1文をロイロで提出													
	10	ペア活動：「第3講：AI のグローバルリーディングカンパニーの取り組み」「第4講：AI を支える技術」をどちらが観るかを決め、それぞれで視聴。学びの記録に記載。													
	35	次回の授業に向けて発表資料を作成する													
評価方法	<p>学びの記録</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th></th> <th>知識/技術</th> <th>意見/考察</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>自分の観点を持って内容を処理、記述している。情報がしっかりと整理されている。</td> <td>知識と知識/意見/考察が有機的につながる記述が多くみられる。深い洞察とクリエイティブな広がりが見られる。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>内容をある一定程度処理、記述している。ある程度情報が整理されている。</td> <td>多少有機的な考察が見られる。多くが短絡的・表層的な感想や意見、疑問にとどまっている。</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>情報の量/質が不十分である。情報が整理されておらず羅列になっている。</td> <td>感想や意見、疑問の量/質が不十分である。</td> </tr> </tbody> </table> <p>次回の3分間プレゼンのルーブリック（事前に提示）</p>				知識/技術	意見/考察	A	自分の観点を持って内容を処理、記述している。情報がしっかりと整理されている。	知識と知識/意見/考察が有機的につながる記述が多くみられる。深い洞察とクリエイティブな広がりが見られる。	B	内容をある一定程度処理、記述している。ある程度情報が整理されている。	多少有機的な考察が見られる。多くが短絡的・表層的な感想や意見、疑問にとどまっている。	C	情報の量/質が不十分である。情報が整理されておらず羅列になっている。	感想や意見、疑問の量/質が不十分である。
	知識/技術	意見/考察													
A	自分の観点を持って内容を処理、記述している。情報がしっかりと整理されている。	知識と知識/意見/考察が有機的につながる記述が多くみられる。深い洞察とクリエイティブな広がりが見られる。													
B	内容をある一定程度処理、記述している。ある程度情報が整理されている。	多少有機的な考察が見られる。多くが短絡的・表層的な感想や意見、疑問にとどまっている。													
C	情報の量/質が不十分である。情報が整理されておらず羅列になっている。	感想や意見、疑問の量/質が不十分である。													

	観点	説明	A	B	C
	目的	プレゼンテーションの目的を聞き手に伝えられたか	プレゼンテーションの目的を明確に相手に示し、聞き手に伝わったことを確認できた。	プレゼンテーションの目的を聞き手に示す部分があった。	プレゼンテーションの目的を聞き手に示せなかった。
	論点	プレゼンテーションの論点が明確であったか。	発表の目的に沿った論点が明確に説明されていた。	発表の目的に沿った論点が表示される部分があった。	発表の目的に沿った論点が表示されなかった。
	考察	考察が示されていたか。	動画の内容に沿った自分なりの考察が3か所以上示されていた。	動画の内容に沿った自分なりの考察が1, 2か所示されていた。	動画の内容に沿った自分なりの考察がなかった。
	スライド	分かりやすく作られていたか。	全ページがキーワード・キーフレーズのみで作られていた。	キーワード・キーフレーズのみで作ることに配慮していたページもあった。	多くのページでキーワード・キーフレーズのみで作ることに配慮していなかった。
		見やすく作られていたか。	全ページでフォント・色使い、余白などに配慮していた。	フォント・色使い・余白などに配慮していたページもあった。	多くのページでフォント・色使い・余白などに配慮していなかった。
	スピーチ	姿勢・表情・視線・ジェスチャーなど非言語的に表現が適切に用いられていたか。	聞き手の反応を確認しつつ、姿勢よくアイコンタクトも用いていた。	良い姿勢やアイコンタクトなどを取ろうと努めていた。	うつむきがちで聞き手の反応を確認する様子がなかった。
<p><b>チェックリスト（形式）</b></p> <input type="checkbox"/> 表紙にタイトル、学年、クラス、番号、名前、発表日時を記載している。 <input type="checkbox"/> 発表時間の3分の±10%におさまっている。（練習をした結果）					
宿題指示	<p>・ AI 入門講義動画「第3講：AIのグローバルリーディングカンパニーの取り組み」「第4講：AIを支える技術」を観て、各自がどちらか1つの発表資料（3分間）を作成する</p>				

授業日	4/26(火)	1 学期授業回数	3 回目 / 全 9 回
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ AI グローバルリーディングカンパニーの取り組み、AIを支える技術、について理解し、語ることが出来る</li> <li>・ ループリックを理解し、前回よりも良いプレゼンテーションを行うことが出来る</li> <li>・ AI 技術を用いたアイデアを創出することが出来る</li> </ul>		
時間 授業内容	5 10 15 15	<p>発表記録（学びの記録代わり）のフィードバック</p> <p>前回発表内容の共有</p> <p>ループリックの確認・自分の発表の練習</p> <p>ループリックを用いて互いの発表を評価し、フィードバックを行う</p> <p>「AI グローバルリーディングカンパニーの取り組みとは・・・」、「AIを支える技術とは・・・」という1文をロイロで提出</p> <p>カードゲームを用いて、AI技術を用いたアイデアを創出する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ カードゲーム X を使用（2枚のリソースにAI技術をリソースに加え、トレードオフカードに書かれている社会課題を解決する）</li> </ul> <p>&lt;手順&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)島の誰かがカードを繰って各班にリソースカードを2枚ずつ配る。</li> <li>(2)上田がカードを繰ってトレードオフを発表する。</li> <li>(3)ペアで5分間のアイデア創出タイム。</li> <li>(4)各ペア2分でアイデアをプレゼンしシェアする。</li> <li>(5)アイデアのオリジナリティ、実現可能性、リソースの活用度など総合的に良かったと思う班を決めよう。指差して投票！</li> <li>(6)その後、カードゲームを通して気づいたことを口頭で何名か発表</li> </ol>	
評価方法	プレゼンのループリック		

観点	説明	A	B	C
目的	プレゼンテーションの目的を聞き手に伝えられたか	プレゼンテーションの目的を明確に相手に示し、聞き手に伝わったことを確認できた。	プレゼンテーションの目的を聞き手に示す部分があった。	プレゼンテーションの目的を聞き手に示せなかった。
論点	プレゼンテーションの論点が明確であったか。	発表の目的に沿った論点が明確に説明されていた。	発表の目的に沿った論点が表示された部分があった。	発表の目的に沿った論点が表示されなかった。
考察	考察が示されていたか。	動画の内容に沿った自分なりの考察が3か所以上示されていた。	動画の内容に沿った自分なりの考察が1, 2か所示されていた。	動画の内容に沿った自分なりの考察がなかった。
スライド	分かりやすく作られていたか。	全ページがキーワード・キーフレーズのみで作られていた。	キーワード・キーフレーズのみで作ることに配慮していたページもあった。	多くのページでキーワード・キーフレーズのみで作ることに配慮していなかった。
	見やすく作られていたか。	全ページでフォント・色使い、余白などに配慮していた。	フォント・色使い・余白などに配慮していたページもあった。	多くのページでフォント・色使い・余白などに配慮していなかった。
スピーチ	姿勢・表情・視線・ジェスチャーなど非言語的に表現が適切に用いられていたか。	聞き手の反応を確認しつつ、姿勢よくアイコンタクトも用いていた。	良い姿勢やアイコンタクトなどを取ろうと努めていた。	うつむきがちで聞き手の反応を確認する様子がなかった。
<p><b>チェックリスト（形式）</b></p> <input type="checkbox"/> 表紙にタイトル、学年、クラス、番号、名前、発表日時を記載している。 <input type="checkbox"/> 発表時間の3分の±10%におさまっている。（練習をした結果）				
宿題指示	・ 学びの記録を翌日の終礼までに提出			

授業日	5/10(火)	1 学期授業回数	4 回目 / 全 9 回												
学習目標	・ 実際に AI を用いて社会課題解決に取り組んでいる方のお話を通じて、AI 活用に必要な考え方やスキルについて学び、AI 活用についての具体的なイメージを持つことが出来る														
時間 授業内容	40 40	株式会社オシンテック 小田真人・一枝氏による講演/ワークショップ  講演：SDGs 事態に我々は何を武器にどう生きていくのか ワークショップ：情報を読み解く ・インテリジェンスの体験 ・情報の読み解き方のコツ まとめ													
評価方法	<b>学びの記録</b> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>知識/技術</th> <th>意見/考察</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>自分の観点を持って内容を処理、記述している。情報がしっかりと整理されている。</td> <td>知識と知識/意見/考察が有機的につながる記述が多くみられる。深い洞察とクリエイティブな広がりが見られる。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>内容をある一定程度処理、記述している。ある程度情報が整理されている。</td> <td>多少有機的な考察が見られる。多くが短絡的・表層的な感想や意見、疑問にとどまっている。</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>情報の量/質が不十分である。情報が整理されておらず羅列になっている。</td> <td>感想や意見、疑問の量/質が不十分である。</td> </tr> </tbody> </table>				知識/技術	意見/考察	A	自分の観点を持って内容を処理、記述している。情報がしっかりと整理されている。	知識と知識/意見/考察が有機的につながる記述が多くみられる。深い洞察とクリエイティブな広がりが見られる。	B	内容をある一定程度処理、記述している。ある程度情報が整理されている。	多少有機的な考察が見られる。多くが短絡的・表層的な感想や意見、疑問にとどまっている。	C	情報の量/質が不十分である。情報が整理されておらず羅列になっている。	感想や意見、疑問の量/質が不十分である。
	知識/技術	意見/考察													
A	自分の観点を持って内容を処理、記述している。情報がしっかりと整理されている。	知識と知識/意見/考察が有機的につながる記述が多くみられる。深い洞察とクリエイティブな広がりが見られる。													
B	内容をある一定程度処理、記述している。ある程度情報が整理されている。	多少有機的な考察が見られる。多くが短絡的・表層的な感想や意見、疑問にとどまっている。													
C	情報の量/質が不十分である。情報が整理されておらず羅列になっている。	感想や意見、疑問の量/質が不十分である。													
宿題指示	翌日の昼休みまでに学びの記録を提出														

授業日	5/24(火)	1 学期授業回数	5 回目 / 全 9 回
学習目標	・ 已波教授から技術班に対して今後の目標を提示していただく ・ AI を使ったイノベーターについて調べて授業にお招きするプロジェクトを紹介することを通して、自分の関心を深める面白さを感じる事が出来る		

時間 授業内容	45	2, 3年生合同で、関西学院大学工学部已波弘佳教授のお話を聞き、これから Python を夏休みにかけて学んでいき、Quest Cup という目標に向けて進んでいくことを確認する。
	15	前回、前々回の学びの記録のフィードバック
	30	「AI 活用イノベーターを見つけ出し話を聞こう」プロジェクトの紹介と、個人ワーク（講師候補者を調査）を開始 <プロジェクト内容> (1)個人ワーク AI を使ったイノベーターにどのような人たちがいるのかを調査 (2)グループワーク 案を持ち寄り、より効果的なアドバイザーとしてふさわしい人を選定 (3)コンペに向けてのプレゼンを作成 予算の関係もあるので、クラスで 1 名を選びます。グループでその人を推薦したい理由を熱弁しましょう。 (4)プレゼンを相互評価し講演者を決定する クラスで最も関心を集めた人を講師として招聘する。 (5)生徒自身でアポイントをとる 夏休みをかけて交渉し、2 学期の初めに講演会を開催する。来校を依頼したり、講演依頼の趣旨や目的を説明する。（もちろん教員もサポートに入る）
評価方法	特になし	
宿題指示	候補者をカードにまとめ、次回授業までにロイロ提出箱に提出	

授業日	5/31(火)	1 学期授業回数	6 回目 / 全 9 回
学習目標			
時間 授業内容	15	<p>本日の授業概要の説明（以下内容）</p> <p>&lt;AI 活用 招聘者を選ぶプレゼンの準備&gt;</p> <p>(0) プレゼンの条件・評価基準</p> <p>① 5 分±15 秒に収める</p> <p>② クエストカップに向けて参考になる事例を学ぶことができる人か</p> <p>(1)洞察力 (2)構築力 (3)訴求力</p> <p>【洞察力】 社会課題の本質を捉えるとは 見出した「課題」が本当の意味で「社会」に還元できる（影響を与える）ものであるのか。「課題」そのものの着眼点が優れているか、ということ！！</p> <p>【構築力】 「本当に解決できるのか」に関しては、実例を挙げて、AI 技術やその方のアイデアが「課題」を「解決」するプロセスや結果を紹介しよう。</p> <p>【訴求力】 社会にどれだけ大きなインパクトを与えるか、ということよりも、これまでの「考え方の枠組み」を転換（パラダイムシフト）するような事例や、価値観の転換（ゲームチェンジ）を促した事例であるかどうか。</p>	

	75	<p>③ 主体的な発表となっているか  (1) 動機 (2) 価値観・経験</p> <p>(1)カテゴリーに分かれて班を作る</p> <p>A類 ゲーム・エンターテインメント関連  B類 政治・金融関連  C類 通信・インフラ関連  D類 産業・健康・企業経営関連</p> <p>※それぞれをさらに細分化し4名前後の班を作る。1班～7・8班</p> <p>(2)班の中で調べてきたことを共有</p> <p>(3)プレゼンの役割分担をする</p> <p>①プレゼンター（発表者）  ②ファシリテーター（司会者）  ③スライドクリエイター（資料準備者）</p> <p>(4)プレゼンまでのスキームを決める</p> <p>グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 招聘者の選定</li> <li>・ 役割分担</li> <li>・ スライド作成</li> </ul>
--	----	--

評価方法	<p>&lt;プレゼン評価のルーブリック&gt;</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2"><b>観点1 「洞察力」の事例を的確に紹介できているか。</b></td> </tr> <tr> <td>5点</td> <td>社会的課題を具体的に想定し、AIを使った取り組みやアイデアがその解決に具体的に働きかけていることが分かる説明となっている。</td> </tr> <tr> <td>3点</td> <td>社会的課題を想定していることは説明されているが、それがAIを使ってどのように解決にむけて働きかけたかが明確でない。</td> </tr> <tr> <td>1点</td> <td>AI技術とその取り組みについて事例を取り上げているが、その課題が社会的な課題ではない。</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><b>観点2 「構築力」の事例を的確に紹介できているか。</b></td> </tr> <tr> <td>5点</td> <td>AI技術やその人のアイデアによって、「課題が解決していったプロセス」や「具体的にどのように変化したのか」が説明されている。</td> </tr> <tr> <td>3点</td> <td>AI技術やその人のアイデアによって、具体的に課題を解決していることは紹介されているが、プロセスが具体的でない。</td> </tr> <tr> <td>1点</td> <td>AI技術やその人のアイデアが課題解決に繋がった事例が紹介されていない。</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><b>観点3 「訴求力」の事例を的確に紹介できているか。</b></td> </tr> <tr> <td>5点</td> <td>AI技術やその人の取り組みによって、多くの人に「考え方の枠組みの転換」や「価値観の転換」を促す点が説明されている。</td> </tr> <tr> <td>3点</td> <td>AI技術やその人の取り組みによって、多くの人に影響を与えた点は触れているが、考え方の枠組みや価値観の転換にまでは至らない。</td> </tr> <tr> <td>1点</td> <td>AI技術やその人の取り組みが、多くの人に影響を与えたとは言えない。</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><b>観点4 主体的な発表になっているか。</b></td> </tr> <tr> <td>5点</td> <td>招聘する人を選ぶ時の動機が、班員の具体的な課題意識や経験の中から生まれたものであり、単に受動的なものでない。</td> </tr> <tr> <td>3点</td> <td>招聘する人を選ぶ時の動機が、社会的課題の大きさからくるものではあるが、班員の具体的な動機と繋がっているとはいえない。</td> </tr> <tr> <td>1点</td> <td>招聘する人を選ぶ時の動機が、単に有名であるから、ニュースに取り上げられていたから、と単に受動的なものとなっている。</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><b>観点5 伝達しようという意欲の伝わるプレゼンテーションとなっているかどうか</b></td> </tr> <tr> <td>5点</td> <td>プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序が優れているだけでなく、声の大きさや視線、ジェスチャーも優れている。</td> </tr> <tr> <td>3点</td> <td>プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序について、あるいは、声の大きさや視線、ジェスチャーのいずれかが優れている。</td> </tr> <tr> <td>1点</td> <td>プレゼン資料の出来栄も特筆することはなく、発表は原稿読み上げにとどまり声が小さく自信がなさそうな印象を与えている。</td> </tr> </table> <p>宿題指示 プレゼンの準備を仕上げる</p>	<b>観点1 「洞察力」の事例を的確に紹介できているか。</b>		5点	社会的課題を具体的に想定し、AIを使った取り組みやアイデアがその解決に具体的に働きかけていることが分かる説明となっている。	3点	社会的課題を想定していることは説明されているが、それがAIを使ってどのように解決にむけて働きかけたかが明確でない。	1点	AI技術とその取り組みについて事例を取り上げているが、その課題が社会的な課題ではない。	<b>観点2 「構築力」の事例を的確に紹介できているか。</b>		5点	AI技術やその人のアイデアによって、「課題が解決していったプロセス」や「具体的にどのように変化したのか」が説明されている。	3点	AI技術やその人のアイデアによって、具体的に課題を解決していることは紹介されているが、プロセスが具体的でない。	1点	AI技術やその人のアイデアが課題解決に繋がった事例が紹介されていない。	<b>観点3 「訴求力」の事例を的確に紹介できているか。</b>		5点	AI技術やその人の取り組みによって、多くの人に「考え方の枠組みの転換」や「価値観の転換」を促す点が説明されている。	3点	AI技術やその人の取り組みによって、多くの人に影響を与えた点は触れているが、考え方の枠組みや価値観の転換にまでは至らない。	1点	AI技術やその人の取り組みが、多くの人に影響を与えたとは言えない。	<b>観点4 主体的な発表になっているか。</b>		5点	招聘する人を選ぶ時の動機が、班員の具体的な課題意識や経験の中から生まれたものであり、単に受動的なものでない。	3点	招聘する人を選ぶ時の動機が、社会的課題の大きさからくるものではあるが、班員の具体的な動機と繋がっているとはいえない。	1点	招聘する人を選ぶ時の動機が、単に有名であるから、ニュースに取り上げられていたから、と単に受動的なものとなっている。	<b>観点5 伝達しようという意欲の伝わるプレゼンテーションとなっているかどうか</b>		5点	プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序が優れているだけでなく、声の大きさや視線、ジェスチャーも優れている。	3点	プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序について、あるいは、声の大きさや視線、ジェスチャーのいずれかが優れている。	1点	プレゼン資料の出来栄も特筆することはなく、発表は原稿読み上げにとどまり声が小さく自信がなさそうな印象を与えている。
<b>観点1 「洞察力」の事例を的確に紹介できているか。</b>																																									
5点	社会的課題を具体的に想定し、AIを使った取り組みやアイデアがその解決に具体的に働きかけていることが分かる説明となっている。																																								
3点	社会的課題を想定していることは説明されているが、それがAIを使ってどのように解決にむけて働きかけたかが明確でない。																																								
1点	AI技術とその取り組みについて事例を取り上げているが、その課題が社会的な課題ではない。																																								
<b>観点2 「構築力」の事例を的確に紹介できているか。</b>																																									
5点	AI技術やその人のアイデアによって、「課題が解決していったプロセス」や「具体的にどのように変化したのか」が説明されている。																																								
3点	AI技術やその人のアイデアによって、具体的に課題を解決していることは紹介されているが、プロセスが具体的でない。																																								
1点	AI技術やその人のアイデアが課題解決に繋がった事例が紹介されていない。																																								
<b>観点3 「訴求力」の事例を的確に紹介できているか。</b>																																									
5点	AI技術やその人の取り組みによって、多くの人に「考え方の枠組みの転換」や「価値観の転換」を促す点が説明されている。																																								
3点	AI技術やその人の取り組みによって、多くの人に影響を与えた点は触れているが、考え方の枠組みや価値観の転換にまでは至らない。																																								
1点	AI技術やその人の取り組みが、多くの人に影響を与えたとは言えない。																																								
<b>観点4 主体的な発表になっているか。</b>																																									
5点	招聘する人を選ぶ時の動機が、班員の具体的な課題意識や経験の中から生まれたものであり、単に受動的なものでない。																																								
3点	招聘する人を選ぶ時の動機が、社会的課題の大きさからくるものではあるが、班員の具体的な動機と繋がっているとはいえない。																																								
1点	招聘する人を選ぶ時の動機が、単に有名であるから、ニュースに取り上げられていたから、と単に受動的なものとなっている。																																								
<b>観点5 伝達しようという意欲の伝わるプレゼンテーションとなっているかどうか</b>																																									
5点	プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序が優れているだけでなく、声の大きさや視線、ジェスチャーも優れている。																																								
3点	プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序について、あるいは、声の大きさや視線、ジェスチャーのいずれかが優れている。																																								
1点	プレゼン資料の出来栄も特筆することはなく、発表は原稿読み上げにとどまり声が小さく自信がなさそうな印象を与えている。																																								

授業日	6/7(火)	1 学期授業回数	7 回目 / 全 9 回
学習目標	AI イノベーターについてのプレゼンテーションを行うことができる。		
時間 授業内容	90	1) 発表順番くじ決め (全 7 班) ・発表スライドをロイロ提出箱に提出 2) プレゼンの条件・評価基準の確認 ① 5 分±15 秒に収める ② クエストカップに向けて参考になる事例を学ぶことができるか (1) 洞察力 (2) 構築力 (3) 訴求力 ③ 主体的な発表となっているか (1) 動機 (2) 価値観・経験 3) 発表の流れの確認 発表(5 分±15 秒) → 質疑応答(3 分) → 学びの記録(2 分) 4) プレゼンループリック (相互評価表) の書き方の確認	
評価方法	前回のループリックを使用		
宿題指示	・ 学びの記録 ・ 動画視聴 (詳細は次の授業参照)		

授業日	6/21(火)	1 学期授業回数	8 回目 / 全 9 回
学習目標	実際に AI に触れてみて、AI を用いた製品を考えてみる事が出来る。		
時間 授業内容	10 分 15 分 15 分 45 分	<事前課題> 1) 「AI を使いこなす人へ：AI 活用で拓新たな世界」という巳波先生の Youtube 講義動画 (約 30 分間) を観てくださいまた、動画に関する 3 つの質問をロイロで配信します。各質問一文で回答し、ロイロの提出箱に次回授業までに提出してください。 2) 「Scratch」についての 3 本 (全部で約 20 分間) の Youtube 講義動画を観てください 3) 「Scratch のつかいかた」という 1 本目の動画の頭に、Scratch のアカウント作成についての説明があります。各自、iPad で Scratch をブックマークし、Scratch のアカウントを授業までに作成してきてください。それ以外は、Scratch を使う必要はありません。 4) 以下の Google Drive にアクセスし、4 つのデータを次の授業までに各自の iPad にダウンロードしてきてください。  <授業内容> 5 時間目 1) 文科省アンケート 2) Scratch を使おう Part 1 ・ゲームを作ろう 15 分 3) Scratch を使おう Part 2 ・騒がしさを判定する AI を体験してみよう 15 分 6 時間目 4) 騒がしさを判定する AI を用いた製品を考えてみよう ・グループ分け 4 人×7 グループ ・「騒がしいと困る時」と、「騒がしいと良い時」は？ マナボードで整理しよう ・次回の授業で行うプレゼンのループリックの提示	

評価方法	なし
宿題指示	なし

授業日	6/28(火)	1 学期授業回数	9 回目 / 全 9 回																					
学習目標	AI を用いた製品をグループで考えることができる																							
時間	45 分	5 時間目																						
授業内容	45 分	6 時間目																						
		<ul style="list-style-type: none"> <li>騒がしさを判定する AI を用いた製品を考えてみよう</li> </ul>																						
		<ul style="list-style-type: none"> <li>発表</li> <li>・ 1 グループ 3 分×7 グループ</li> <li>・ コメンテーター：已波ゼミ学生 3 名 林田さん・高野さん・多田さん</li> </ul>																						
評価方法	コメンテーターの方々にも評価してもらう																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">観点</th> <th rowspan="2">観点内訳</th> <th colspan="3">評価基準</th> </tr> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">提案内容</td> <td>(1) 提案内容の具体性</td> <td>提案について、「いつ、誰が、何を、どのように、どこでするのか」等の具体的な内容が説明されており、実現性を高めるための工夫が盛り込まれている</td> <td>提案について、「いつ、誰が、何を、どのように、どこでするのか」等の具体的な内容が説明されているが、実現性を高めるための工夫が盛り込まれていない</td> <td>提案について、「いつ、誰が、何を、どのように、どこでするのか」等の具体的な内容が説明されていない</td> </tr> <tr> <td>(2) 提案内容の独自性</td> <td>提案内容にこれまでになかったであろう（あるいは非常に事例が少ない）新しいアイデアが盛り込まれている</td> <td>既に他者によって取り組まれていることを組み合わせるなどして、新しい要素が提案内容に盛り込まれている</td> <td>提案内容は既に他者によって取り組まれていることであり、何も新しい要素が含まれていない</td> </tr> <tr> <td>(3) 提案内容とAIの関連性</td> <td>提案内容とAIのある具体的な機能の関連性が明示されている。</td> <td>提案内容とAIの機能の関連性がある程度説明されているものの、具体的な説明までには至っていない</td> <td>提案内容とAIの機能がどのような関係性があるのかが明示されていない</td> </tr> </tbody> </table>			観点	観点内訳	評価基準			A	B	C	提案内容	(1) 提案内容の具体性	提案について、「いつ、誰が、何を、どのように、どこでするのか」等の具体的な内容が説明されており、実現性を高めるための工夫が盛り込まれている	提案について、「いつ、誰が、何を、どのように、どこでするのか」等の具体的な内容が説明されているが、実現性を高めるための工夫が盛り込まれていない	提案について、「いつ、誰が、何を、どのように、どこでするのか」等の具体的な内容が説明されていない	(2) 提案内容の独自性	提案内容にこれまでになかったであろう（あるいは非常に事例が少ない）新しいアイデアが盛り込まれている	既に他者によって取り組まれていることを組み合わせるなどして、新しい要素が提案内容に盛り込まれている	提案内容は既に他者によって取り組まれていることであり、何も新しい要素が含まれていない	(3) 提案内容とAIの関連性	提案内容とAIのある具体的な機能の関連性が明示されている。	提案内容とAIの機能の関連性がある程度説明されているものの、具体的な説明までには至っていない	提案内容とAIの機能がどのような関係性があるのかが明示されていない
観点	観点内訳	評価基準																						
		A	B	C																				
提案内容	(1) 提案内容の具体性	提案について、「いつ、誰が、何を、どのように、どこでするのか」等の具体的な内容が説明されており、実現性を高めるための工夫が盛り込まれている	提案について、「いつ、誰が、何を、どのように、どこでするのか」等の具体的な内容が説明されているが、実現性を高めるための工夫が盛り込まれていない	提案について、「いつ、誰が、何を、どのように、どこでするのか」等の具体的な内容が説明されていない																				
	(2) 提案内容の独自性	提案内容にこれまでになかったであろう（あるいは非常に事例が少ない）新しいアイデアが盛り込まれている	既に他者によって取り組まれていることを組み合わせるなどして、新しい要素が提案内容に盛り込まれている	提案内容は既に他者によって取り組まれていることであり、何も新しい要素が含まれていない																				
	(3) 提案内容とAIの関連性	提案内容とAIのある具体的な機能の関連性が明示されている。	提案内容とAIの機能の関連性がある程度説明されているものの、具体的な説明までには至っていない	提案内容とAIの機能がどのような関係性があるのかが明示されていない																				
宿題指示	なし																							

高等部教育目標	
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う	
探究型カリキュラム教育/学習目標	
SDGs の達成を目指し、Mastery for Service を体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける	
探究型カリキュラムにおける 5 つの学びの方針 Five Principles for Learning	
1. 自分事として    2. 社会/実践を通して    3. 知識を大事に    4. コミュニケーションを通して    5. 生徒・教員が共に <オーナーシップ/一人称>    <PBL 型/アクション>    <自ら得る知識/高める関心>    <自分/他者のやりとり>    <共に探究する関係性>	
AI の学習目標	
SDGs の達成に向け、社会で利用されている AI に関する見識を広げ、AI 活用スキルを身につける	
1. 社会で AI が活用されている事例を知り、AI の役割や機能を語ることができる 2. AI の様々な側面を理解したうえで、AI の活用法について議論できる 3. AI を活用して SDGs の各課題の解決案を提案することができる	

授業日	9/6(火)	2 学期授業回数	1 回目 / 全 10 回
学習目標	自分の発表を、フィードバックを受けて改善することが出来る		
時間 授業内容	<p>2 年生 AI 活用 夏休みの宿題</p> <p>課題：夏休み明け初回の授業で、2 分間(±15 秒)の発表を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表資料は必ず作成し、発表に使用すること。</li> <li>・授業当日 9/6(火)の授業前までにロイロの提出箱に発表資料を提出すること。</li> <li>・発表順番は授業当日決定。</li> </ul> <p>【 課題 A：技術班対象 】</p> <p>「『Python 1 年生』の進捗状況の報告」</p> <p>夏休み中に取組み終了予定の『Python1 年生』について、技術班以外のメンバーに、自分が何が出来るようになったのか、を説明する</p> <p>【 課題 B：技術班以外対象 】</p> <p>「『AI』に関わる文献 1 冊についてのブックトーク」</p> <p>夏休み中に AI に関わる文献を自由に選んで 1 冊読み、自分が何をこの本で学んだのか、について説明する</p> <p>5 15 25 4 5</p> <p>あいさつ / 夏休みの宿題の確認 / ルーブリックの確認</p> <p>各自で発表の練習：原稿は覚えることを指示</p> <p>同じ課題同士で練習    課題 1：3 人×2、4 人×1    課題 2：3 人×6</p> <p>ルーブリックを用いて互いにフィードバック</p> <p>自分の発表を修正</p> <p>同じ課題のグループで練習    課題 1：3 1 0 教室    課題 2：特別教室 3</p> <p>ルーブリックを用いて互いにフィードバック</p>		

	修正
評価方法	学びの記録（どのようなフィードバックをもらったのか、またそこから何を学んだのか）
宿題指示	翌週に全員の前で発表を各自が行うこと、成績に大きく入ることを指示

授業日	9/13(火)	2 学期授業回数	2 回目 / 全 10 回																								
学習目標	自分の学びを発表することができる																										
時間 授業内容	70	課題 1（10 人）1 人 2 分ずつの発表を行う。 ・ 2 分の発表ののち、2 分間の質問タイムを行う（4 分×10 人） ・ Practical English でも用いる質問の仕方について講義 A: Asking for repetition（繰り返し） B: Asking for clarification（明確に） C: Asking about the content（内容について） D: Asking about the speaker's opinion/experience（発表者の意見・経験について）																									
	20	発表した 10 人を前に座らせ、「Python にできること・できないこと」というテーマでシンポジウム形式の討論会を実施。ファシリテーターは教員が担当。																									
評価方法	<b>2年生: AI活用【課題A:技術班対象】</b> <b>「『Python 1年生』の進捗状況の報告」のプレゼンループリック</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2">観点1 Pythonの説明</th> </tr> <tr> <td style="width: 5%;">A</td> <td>Pythonとは何なのか、の概観の説明が、大変簡潔明瞭である。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>Pythonとは何なのか、の概観の説明が、ある程度されている。</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>Pythonとは何なのか、の概観の説明が、あまりされていない。</td> </tr> <tr> <th colspan="2">観点2 自分のスキルの説明</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>自分がPythonのどのような機能を使えるようになり、どのようなことが出来るようになったかの説明が大変明確である。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>自分がPythonのどのような機能を使えるようになり、どのようなことが出来るようになったかの説明がある程度されている。</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>自分がPythonのどのような機能を使えるようになり、どのようなことが出来るようになったかの説明があまりされていない。</td> </tr> <tr> <th colspan="2">観点3 伝達しようという意欲の伝わるプレゼンテーションとなっているかどうか</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序が優れているだけでなく、声の大きさや視線、ジェスチャーも優れている。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序について、あるいは、声の大きさや視線、ジェスチャーのいずれかが優れている。</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>プレゼン資料の出来栄も符筆することはなく、発表は原稿読み上げにとどまり声が小さく自信がなさそうな印象を与えている。</td> </tr> </table>			観点1 Pythonの説明		A	Pythonとは何なのか、の概観の説明が、大変簡潔明瞭である。	B	Pythonとは何なのか、の概観の説明が、ある程度されている。	C	Pythonとは何なのか、の概観の説明が、あまりされていない。	観点2 自分のスキルの説明		A	自分がPythonのどのような機能を使えるようになり、どのようなことが出来るようになったかの説明が大変明確である。	B	自分がPythonのどのような機能を使えるようになり、どのようなことが出来るようになったかの説明がある程度されている。	C	自分がPythonのどのような機能を使えるようになり、どのようなことが出来るようになったかの説明があまりされていない。	観点3 伝達しようという意欲の伝わるプレゼンテーションとなっているかどうか		A	プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序が優れているだけでなく、声の大きさや視線、ジェスチャーも優れている。	B	プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序について、あるいは、声の大きさや視線、ジェスチャーのいずれかが優れている。	C	プレゼン資料の出来栄も符筆することはなく、発表は原稿読み上げにとどまり声が小さく自信がなさそうな印象を与えている。
観点1 Pythonの説明																											
A	Pythonとは何なのか、の概観の説明が、大変簡潔明瞭である。																										
B	Pythonとは何なのか、の概観の説明が、ある程度されている。																										
C	Pythonとは何なのか、の概観の説明が、あまりされていない。																										
観点2 自分のスキルの説明																											
A	自分がPythonのどのような機能を使えるようになり、どのようなことが出来るようになったかの説明が大変明確である。																										
B	自分がPythonのどのような機能を使えるようになり、どのようなことが出来るようになったかの説明がある程度されている。																										
C	自分がPythonのどのような機能を使えるようになり、どのようなことが出来るようになったかの説明があまりされていない。																										
観点3 伝達しようという意欲の伝わるプレゼンテーションとなっているかどうか																											
A	プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序が優れているだけでなく、声の大きさや視線、ジェスチャーも優れている。																										
B	プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序について、あるいは、声の大きさや視線、ジェスチャーのいずれかが優れている。																										
C	プレゼン資料の出来栄も符筆することはなく、発表は原稿読み上げにとどまり声が小さく自信がなさそうな印象を与えている。																										
宿題指示	学びの記録																										

授業日	9/20(火)	2 学期授業回数	3 回目 / 全 10 回																								
学習目標	自分の学びを発表することができる																										
時間 授業内容	90	課題 2 (18 人) 1 人 2 分ずつの発表を行う。 ・ 2 分の発表ののち、2 分間の質問タイムを行う (4 分×10 人) ・ Practical English でも用いる質問の仕方について講義 A: Asking for repetition (繰り返し) B: Asking for clarification (明確に) C: Asking about the content (内容について) D: Asking about the speaker's opinion/experience (発表者の意見・経験について)																									
評価方法	<b>2年生: AI活用【課題B:技術班以外対象】</b> <b>『AI』に関わる文献1冊についてのブックトーク</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2">観点1 AIについて得た知識・学び</th> </tr> <tr> <td style="width: 5%;">A</td> <td>AIについて得た知識・学びについて、自分の言葉を用いて、大変分かりやすく説明している。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>AIについて得た知識・学びについて、ある程度自分の言葉を用いて、分かりやすく説明しようとしている。</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>AIについて得た知識・学びについて、本の内容や文をそのまま引用するような説明になっている。</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2">観点2 本が魅力的である点、または魅力的でない点</th> </tr> <tr> <td style="width: 5%;">A</td> <td>この本を読んだことのない人に対して、観点1で触れた内容以外について触れながら、説得力を持ってその本を読むことを勧めている/勧めていない。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>この本を読んだことのない人に対して、観点1で触れた内容以外について触れながら、ある程度の説得力を持ってその本を読むことを勧めている/勧めていない。</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>この本を読んだことのない人に対して、観点1で触れた内容以外について触れながら、その本を読むことを勧めるのか勧めないかが表現できていない</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2">観点3 伝達しようという意欲の伝わるプレゼンテーションとなっているかどうか</th> </tr> <tr> <td style="width: 5%;">A</td> <td>プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序が優れているだけでなく、声の大きさや視線、ジェスチャーも優れている。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序について、あるいは、声の大きさや視線、ジェスチャーのいずれかが優れている。</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>プレゼン資料の出来栄も特筆することはなく、発表は原稿読み上げにとどまり声が小さく自信がなさそうな印象を与えている。</td> </tr> </table>			観点1 AIについて得た知識・学び		A	AIについて得た知識・学びについて、自分の言葉を用いて、大変分かりやすく説明している。	B	AIについて得た知識・学びについて、ある程度自分の言葉を用いて、分かりやすく説明しようとしている。	C	AIについて得た知識・学びについて、本の内容や文をそのまま引用するような説明になっている。	観点2 本が魅力的である点、または魅力的でない点		A	この本を読んだことのない人に対して、観点1で触れた内容以外について触れながら、説得力を持ってその本を読むことを勧めている/勧めていない。	B	この本を読んだことのない人に対して、観点1で触れた内容以外について触れながら、ある程度の説得力を持ってその本を読むことを勧めている/勧めていない。	C	この本を読んだことのない人に対して、観点1で触れた内容以外について触れながら、その本を読むことを勧めるのか勧めないかが表現できていない	観点3 伝達しようという意欲の伝わるプレゼンテーションとなっているかどうか		A	プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序が優れているだけでなく、声の大きさや視線、ジェスチャーも優れている。	B	プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序について、あるいは、声の大きさや視線、ジェスチャーのいずれかが優れている。	C	プレゼン資料の出来栄も特筆することはなく、発表は原稿読み上げにとどまり声が小さく自信がなさそうな印象を与えている。
観点1 AIについて得た知識・学び																											
A	AIについて得た知識・学びについて、自分の言葉を用いて、大変分かりやすく説明している。																										
B	AIについて得た知識・学びについて、ある程度自分の言葉を用いて、分かりやすく説明しようとしている。																										
C	AIについて得た知識・学びについて、本の内容や文をそのまま引用するような説明になっている。																										
観点2 本が魅力的である点、または魅力的でない点																											
A	この本を読んだことのない人に対して、観点1で触れた内容以外について触れながら、説得力を持ってその本を読むことを勧めている/勧めていない。																										
B	この本を読んだことのない人に対して、観点1で触れた内容以外について触れながら、ある程度の説得力を持ってその本を読むことを勧めている/勧めていない。																										
C	この本を読んだことのない人に対して、観点1で触れた内容以外について触れながら、その本を読むことを勧めるのか勧めないかが表現できていない																										
観点3 伝達しようという意欲の伝わるプレゼンテーションとなっているかどうか																											
A	プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序が優れているだけでなく、声の大きさや視線、ジェスチャーも優れている。																										
B	プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序について、あるいは、声の大きさや視線、ジェスチャーのいずれかが優れている。																										
C	プレゼン資料の出来栄も特筆することはなく、発表は原稿読み上げにとどまり声が小さく自信がなさそうな印象を与えている。																										
宿題指示	学びの記録																										

授業日	9/27(火)	2 学期授業回数	4 回目 / 全 10 回
学習目標	SUNABA を用いてチャットボットを作成することを通して、AI 活用を実践的に考えることができるようになる		
時間 授業内容	60  30	関西学院大学理工学部の日波ゼミの学生 2 名を講師としてお招きし、SUNABA を用いてチャットボットを作成  1) 動画を視聴しながら SUNABA を用いてサンプルのチャットボットの作成をする ・ 3 人グループで 1 台 PC を使用 ・ 動画は宿題で視聴済の状態  2) 自分たちが解決したい身の周りの問題や社会問題について、オリジナルのチャットボットを作成する ・ 次回の授業でそのチャットボットをクラスに発表予定	
評価方法	なし		
宿題指示	なし		

授業日	10/4(火)	2 学期授業回数	5 回目 / 全 10 回
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SUNABA を用いてチャットボットを作成することを通して、AI 活用を実践的に考えることができるようになる</li> <li>・ 「画像を識別する AI ブロック」を活用して「日常生活に役立つ AI アプリ」を開発するために、Scratch を用いて画像を識別する AI ブロックの操作を行うことができる。</li> </ul>		
時間 授業内容	45	関西学院大学理工学部の日波ゼミの学生 2 名を講師としてお招きして下記の授業を展開	
	45	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分たちが解決したい身の周りの問題や社会問題について、オリジナルのチャットボットを作成する</li> <li>・ どのような身の回り/社会課題の解決を目的としたチャットボットを作成したかについて、1 分間程度の発表をまなボードを使って行う → そのチャットボットの動画を提出</li> <li>・ 『「画像を識別する AI ブロック」を活用して「日常生活に役立つ AI アプリ」を開発する』ことを解説する動画を視聴しながら、Scratch で画像を学習、認識させる</li> </ul>	
評価方法	なし		
宿題指示	なし		

授業日	10/18(火)	2 学期授業回数	6 回目 / 全 10 回																				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「画像を識別する AI ブロック」を活用して「日常生活に役立つ AI アプリ」を開発するために、Scratch を用いて画像を識別する AI ブロックの操作を行うことができる。</li> </ul>																						
時間 授業内容	20	授業開始, 3 人のグループに分かれてアプリについてプレストをする																					
	25	1 グループにつき 1 台の Scratch を用いて実際にアプリを作ってみる																					
	20	引き続きグループ作業																					
	25	各グループが発表する 授業終了																					
評価方法																							
宿題指示	<p>「AI を活用するとはどういうことか」について、4/19 の発表資料にある学びと、今回の 3 回の授業で実感・体感して学んだことを考察しながら 800 字程度で書きなさい。</p> <p>→ Classi アンケート機能で配信・提出</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th colspan="2">【10/18】</th> <th colspan="2">「AI を活用するとはどういうことか」について、4/19 の発表資料にある学びと、今回の 3 回の授業で実感・体感して学んだことを考察しながら 800 字程度で書きなさい。</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>考察</th> <th>文字数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>4/19 の学びと今回の 3 回の授業の学びが、有機的なつながりを見せており、そこから自分なりの AI 活用の説明についての記述が明確に見られる。</td> <td></td> <td>800 字程度におさまっている。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>4/19 の学びと今回の 3 回の授業の学びが、ある程度つながっており、そこから自分なりの AI 活用の説明についての記述がある程度見られる。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>4/19 の学びと今回の 3 回の授業の学びが、あまりつながっておらず、自分なりの AI 活用についての説明があまり見られない。</td> <td></td> <td>800 字程度におさまっていない。</td> </tr> </tbody> </table>			【10/18】		「AI を活用するとはどういうことか」について、4/19 の発表資料にある学びと、今回の 3 回の授業で実感・体感して学んだことを考察しながら 800 字程度で書きなさい。				考察	文字数	A	4/19 の学びと今回の 3 回の授業の学びが、有機的なつながりを見せており、そこから自分なりの AI 活用の説明についての記述が明確に見られる。		800 字程度におさまっている。	B	4/19 の学びと今回の 3 回の授業の学びが、ある程度つながっており、そこから自分なりの AI 活用の説明についての記述がある程度見られる。			C	4/19 の学びと今回の 3 回の授業の学びが、あまりつながっておらず、自分なりの AI 活用についての説明があまり見られない。		800 字程度におさまっていない。
【10/18】		「AI を活用するとはどういうことか」について、4/19 の発表資料にある学びと、今回の 3 回の授業で実感・体感して学んだことを考察しながら 800 字程度で書きなさい。																					
		考察	文字数																				
A	4/19 の学びと今回の 3 回の授業の学びが、有機的なつながりを見せており、そこから自分なりの AI 活用の説明についての記述が明確に見られる。		800 字程度におさまっている。																				
B	4/19 の学びと今回の 3 回の授業の学びが、ある程度つながっており、そこから自分なりの AI 活用の説明についての記述がある程度見られる。																						
C	4/19 の学びと今回の 3 回の授業の学びが、あまりつながっておらず、自分なりの AI 活用についての説明があまり見られない。		800 字程度におさまっていない。																				

授業日	10/25(火)	2 学期授業回数	7 回目 / 全 10 回
学習目標	先輩の発表や講演を通じて、自分たちが来年度取り組むクエストカップの題材を考える上でのアイデアや思考の軸を得ることが出来る		
時間 授業内容	45	3 年生 AI 活用のクエストカップ用のポスタープレゼンを 5 つ聞く	
	45	NPO 法人 Learning for All 代表の李炯植ご講演「社会課題を解決するために」 ・誰のどんな課題を解決したいのか ・なぜ「あなた」が取り組むのか ・実行し、学び続ける 質疑応答	
評価方法	学びの記録		
宿題指示	なし		

授業日	11/8(火)	2 学期授業回数	8 回目 / 全 10 回																																				
学習目標	自分たちの 1, 2 学期の学びを 2 分間の動画にまとめることが出来る																																						
時間 授業内容	10	巳波先生から趣旨の呼びかけ / 前回の授業のご感想																																					
	80	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の 9 つの班をベースに、それぞれが 2 分間の動画を作成する</li> </ul> <p>目的：AI 活用を学ぶことの面白さ、大切さを伝える</p> <p>対象：来年度の 2 年生 + 学内外の人たち（保護者、受験生、教員 他）</p> <p>必ず含む内容：AI 活用とは何か</p> <p>なぜ AI 活用を学ぶべきか</p> <p>自分たちが作成した AI が動く場面</p> <p>授業の紹介</p>																																					
評価方法	<p><b>2年生「AI活用」授業の学びの2分間動画</b></p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2"><b>観点1 動画の目的が達成されているか</b></td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>AI活用を学ぶことの面白さ、大切さを伝えようとする意図が明確に表現されている</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>AI活用を学ぶことの面白さ、大切さを伝えようとする意図がある程度表現されている</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>AI活用を学ぶことの面白さ、大切さを伝えようとする意図があまり表現されていない</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td colspan="2"><b>観点2 自分たちが作成したAIが、はっきりとした課題・目的意識を持って作成されているか</b></td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>AIが作成された課題・目的意識が大変明確である</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>AIが作成された課題・目的意識が少し見られる</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>AIが作成された課題・目的意識が明確でない</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td colspan="2"><b>観点3 内容をうまく伝えようとする工夫が動画に見られるか</b></td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>動画の構成や音楽、文字の色使いやフォントなど、内容をうまく伝えようとする工夫が総合的に多く見られる</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>動画の構成や音楽、文字の色使いやフォントなど、内容をうまく伝えようとする工夫が少し見られる</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>動画の構成や音楽、文字の色使いやフォントなど、内容をうまく伝えようとする工夫が見られない</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td colspan="2"><b>チェックリスト 以下の内容が含まれているか</b></td> </tr> <tr> <td></td> <td>AI活用とは何か</td> </tr> <tr> <td></td> <td>なぜAI活用を学ぶべきか</td> </tr> <tr> <td></td> <td>自分たちが作成したAIが動く場面</td> </tr> <tr> <td></td> <td>授業の紹介</td> </tr> <tr> <td></td> <td>動画が2分以内に収まっている（1分45秒以上）</td> </tr> </table>			<b>観点1 動画の目的が達成されているか</b>		A	AI活用を学ぶことの面白さ、大切さを伝えようとする意図が明確に表現されている	B	AI活用を学ぶことの面白さ、大切さを伝えようとする意図がある程度表現されている	C	AI活用を学ぶことの面白さ、大切さを伝えようとする意図があまり表現されていない	<b>観点2 自分たちが作成したAIが、はっきりとした課題・目的意識を持って作成されているか</b>		A	AIが作成された課題・目的意識が大変明確である	B	AIが作成された課題・目的意識が少し見られる	C	AIが作成された課題・目的意識が明確でない	<b>観点3 内容をうまく伝えようとする工夫が動画に見られるか</b>		A	動画の構成や音楽、文字の色使いやフォントなど、内容をうまく伝えようとする工夫が総合的に多く見られる	B	動画の構成や音楽、文字の色使いやフォントなど、内容をうまく伝えようとする工夫が少し見られる	C	動画の構成や音楽、文字の色使いやフォントなど、内容をうまく伝えようとする工夫が見られない	<b>チェックリスト 以下の内容が含まれているか</b>			AI活用とは何か		なぜAI活用を学ぶべきか		自分たちが作成したAIが動く場面		授業の紹介		動画が2分以内に収まっている（1分45秒以上）
<b>観点1 動画の目的が達成されているか</b>																																							
A	AI活用を学ぶことの面白さ、大切さを伝えようとする意図が明確に表現されている																																						
B	AI活用を学ぶことの面白さ、大切さを伝えようとする意図がある程度表現されている																																						
C	AI活用を学ぶことの面白さ、大切さを伝えようとする意図があまり表現されていない																																						
<b>観点2 自分たちが作成したAIが、はっきりとした課題・目的意識を持って作成されているか</b>																																							
A	AIが作成された課題・目的意識が大変明確である																																						
B	AIが作成された課題・目的意識が少し見られる																																						
C	AIが作成された課題・目的意識が明確でない																																						
<b>観点3 内容をうまく伝えようとする工夫が動画に見られるか</b>																																							
A	動画の構成や音楽、文字の色使いやフォントなど、内容をうまく伝えようとする工夫が総合的に多く見られる																																						
B	動画の構成や音楽、文字の色使いやフォントなど、内容をうまく伝えようとする工夫が少し見られる																																						
C	動画の構成や音楽、文字の色使いやフォントなど、内容をうまく伝えようとする工夫が見られない																																						
<b>チェックリスト 以下の内容が含まれているか</b>																																							
	AI活用とは何か																																						
	なぜAI活用を学ぶべきか																																						
	自分たちが作成したAIが動く場面																																						
	授業の紹介																																						
	動画が2分以内に収まっている（1分45秒以上）																																						

宿題指示	特になし
------	------

授業日	11/22(火)	2 学期授業回数	9 回目 / 全 10 回																																				
学習目標	11/8 と同様：自分たちの 1, 2 学期の学びを 2 分間の動画にまとめることができる																																						
時間	11/8(火)と同様																																						
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の 9 つの班をベースに、それぞれが 2 分間の動画を作成する</li> </ul> <p>目的：AI 活用を学ぶことの面白さ、大切さを伝える</p> <p>対象：来年度の 2 年生 + 学内外の人たち（保護者、受験生、教員 他）</p> <p>必ず含む内容：AI 活用とは何か</p> <p>なぜ AI 活用を学ぶべきか</p> <p>自分たちが作成した AI が動く場面</p> <p>授業の紹介</p>																																						
評価方法	<p><b>2年生「AI活用」授業の学びの2分間動画</b></p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2"><b>観点1 動画の目的が達成されているか</b></td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>AI活用を学ぶことの面白さ、大切さを伝えようとする意図が明確に表現されている</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>AI活用を学ぶことの面白さ、大切さを伝えようとする意図がある程度表現されている</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>AI活用を学ぶことの面白さ、大切さを伝えようとする意図があまり表現されていない</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><b>観点2 自分たちが作成したAIが、はっきりとした課題・目的意識を持って作成されているか</b></td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>AIが作成された課題・目的意識が大変明確である</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>AIが作成された課題・目的意識が少し見られる</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>AIが作成された課題・目的意識が明確でない</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><b>観点3 内容をうまく伝えようとする工夫が動画に見られるか</b></td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>動画の構成や音楽、文字の色使いやフォントなど、内容をうまく伝えようとする工夫が総合的に多く見られる</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>動画の構成や音楽、文字の色使いやフォントなど、内容をうまく伝えようとする工夫が少し見られる</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>動画の構成や音楽、文字の色使いやフォントなど、内容をうまく伝えようとする工夫が見られない</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><b>チェックリスト 以下の内容が含まれているか</b></td> </tr> <tr> <td></td> <td>AI活用とは何か</td> </tr> <tr> <td></td> <td>なぜAI活用を学ぶべきか</td> </tr> <tr> <td></td> <td>自分たちが作成したAIが動く場面</td> </tr> <tr> <td></td> <td>授業の紹介</td> </tr> <tr> <td></td> <td>動画が2分以内に収まっている（1分45秒以上）</td> </tr> </table>			<b>観点1 動画の目的が達成されているか</b>		A	AI活用を学ぶことの面白さ、大切さを伝えようとする意図が明確に表現されている	B	AI活用を学ぶことの面白さ、大切さを伝えようとする意図がある程度表現されている	C	AI活用を学ぶことの面白さ、大切さを伝えようとする意図があまり表現されていない	<b>観点2 自分たちが作成したAIが、はっきりとした課題・目的意識を持って作成されているか</b>		A	AIが作成された課題・目的意識が大変明確である	B	AIが作成された課題・目的意識が少し見られる	C	AIが作成された課題・目的意識が明確でない	<b>観点3 内容をうまく伝えようとする工夫が動画に見られるか</b>		A	動画の構成や音楽、文字の色使いやフォントなど、内容をうまく伝えようとする工夫が総合的に多く見られる	B	動画の構成や音楽、文字の色使いやフォントなど、内容をうまく伝えようとする工夫が少し見られる	C	動画の構成や音楽、文字の色使いやフォントなど、内容をうまく伝えようとする工夫が見られない	<b>チェックリスト 以下の内容が含まれているか</b>			AI活用とは何か		なぜAI活用を学ぶべきか		自分たちが作成したAIが動く場面		授業の紹介		動画が2分以内に収まっている（1分45秒以上）
<b>観点1 動画の目的が達成されているか</b>																																							
A	AI活用を学ぶことの面白さ、大切さを伝えようとする意図が明確に表現されている																																						
B	AI活用を学ぶことの面白さ、大切さを伝えようとする意図がある程度表現されている																																						
C	AI活用を学ぶことの面白さ、大切さを伝えようとする意図があまり表現されていない																																						
<b>観点2 自分たちが作成したAIが、はっきりとした課題・目的意識を持って作成されているか</b>																																							
A	AIが作成された課題・目的意識が大変明確である																																						
B	AIが作成された課題・目的意識が少し見られる																																						
C	AIが作成された課題・目的意識が明確でない																																						
<b>観点3 内容をうまく伝えようとする工夫が動画に見られるか</b>																																							
A	動画の構成や音楽、文字の色使いやフォントなど、内容をうまく伝えようとする工夫が総合的に多く見られる																																						
B	動画の構成や音楽、文字の色使いやフォントなど、内容をうまく伝えようとする工夫が少し見られる																																						
C	動画の構成や音楽、文字の色使いやフォントなど、内容をうまく伝えようとする工夫が見られない																																						
<b>チェックリスト 以下の内容が含まれているか</b>																																							
	AI活用とは何か																																						
	なぜAI活用を学ぶべきか																																						
	自分たちが作成したAIが動く場面																																						
	授業の紹介																																						
	動画が2分以内に収まっている（1分45秒以上）																																						
宿題指示	特になし																																						

授業日	11/29(火)	2 学期授業回数	10 回目 / 全 10 回
学習目標			
時間			

授業内容		
評価方法		
宿題指示		

高等部教育目標	
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う	
探究型カリキュラム教育/学習目標	
SDGsの達成を目指し、Mastery for Serviceを体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける	
探究型カリキュラムにおける5つの学びの方針 Five Principles for Learning	
1. 自分事として    2. 社会/実践を通して    3. 知識を大事に    4. コミュニケーションを通して    5. 生徒・教員が共に <オナーシップ/一人称>    <PBL型/アクション>    <自ら得る知識/高める関心>    <自分/他者のやりとり>    <共に探究する関係性>	
AIの学習目標	
SDGsの達成に向け、社会で利用されているAIに関する見識を広げ、AI活用スキルを身につける	
1. 社会でAIが活用されている事例を知り、AIの役割や機能を語ることができる	
2. AIの様々な側面を理解したうえで、AIの活用法について議論できる	
3. AIを活用してSDGsの各課題の解決案を提案することができる	

授業日	1/17(火)	3学期授業回数	1回目 / 全6回
学習目標	クロスカリキュラム・ピアティーチングに向けてアイデアをグループで共有することが出来る		
時間	15	文科省アンケート回答	
授業内容	30	クロスカリキュラム・ピアティーチングの趣旨説明	
	45	5つのグループに分かれてワークシートを用いたブレインストーミング <個人ワーク> → <グループワーク> ・「AIを活用すること」を説明するのに必要な項目を思いっただけ挙げる ・どのような方法で伝えることが効果的かアイデアを出す ・本番までのスケジュール、役割分担を考える	
評価方法	ワークシート		
宿題指示	なし		

授業日	1/24(火)	3学期授業回数	2回目 / 全6回
学習目標	クロスカリキュラム・ピアティーチングに向けてアイデアをグループで共有することが出来る		
時間	90	<グループワーク>	
授業内容		・ピアティーチングのワークショッププランのワークシートを作成することを通して、各グループの活動の目的や内容、役割分担を明確にする ・次回のコンペ（各グループ7分）の発表に向けて準備をする	
評価方法	なし		
宿題指示	なし		

授業日	1/31(火)	3 学期授業回数	3 回目 / 全 6 回																								
学習目標	クロスカリキュラム・ピアティーチングに向けてアイデアを発表することが出来る。 来週の新明和工業株式会社訪問に向けて質問項目を作成することが出来る。																										
時間 授業内容	70  20	各グループ 7 分(±20 秒)でワークショップの内容を発表する ・ 質疑応答あり ・ 資料あり (発表スライド、ワークショッププランシート) ・ ルーブリックを用いて相互評価を行う 新明和工業株式会社への質問項目作成 ・ 新明和工業の技術や商品の「メリット」「デメリット」を動画や HP から情報を集めて整理 ・ 新明和工業が AI を実装させた、またはさせようとしている技術や商品に懸念される問題点を指摘 ・ 実際に開発者にお会いした時に聞いてみたい質問内容の列挙																									
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内容①</td> <td>授業内容を生徒が主体的に解釈し再構築することができている。</td> <td>授業内容を生徒が理解しアウトプットすることができている。</td> <td>生徒は授業内容を伝達しようとしているが、十分な理解に至っていない。</td> </tr> <tr> <td>内容②</td> <td>授業を通して生徒が一定の価値観を構築していることが垣間見られる。</td> <td>授業を通して生徒が理解したことを使いこなせているが価値観の構築には至っていない。</td> <td>授業を通して生徒が何を理解しているのかが伝わってこない。</td> </tr> <tr> <td>協同性</td> <td>講義・ワークショップを班の構成員の協同により形成されていることがうかがえる。</td> <td>講義・ワークショップを班の構成員の多くが関わっていることがうかがえる。</td> <td>講義・ワークショップが一部の生徒によって作られ、運営されているように見える。</td> </tr> <tr> <td>手法</td> <td>初めて学ぶ人に「より深く学んでみたい」と意欲を促すような講義・ワークショップの工夫が施されていた。</td> <td>初めて学ぶ人にも分かりやすく取り組みやすい講義・ワークショップの工夫が施されていた。</td> <td>講義・ワークショップに積極的な工夫は見られなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>合計</td> </tr> </tbody> </table>				A	B	C	内容①	授業内容を生徒が主体的に解釈し再構築することができている。	授業内容を生徒が理解しアウトプットすることができている。	生徒は授業内容を伝達しようとしているが、十分な理解に至っていない。	内容②	授業を通して生徒が一定の価値観を構築していることが垣間見られる。	授業を通して生徒が理解したことを使いこなせているが価値観の構築には至っていない。	授業を通して生徒が何を理解しているのかが伝わってこない。	協同性	講義・ワークショップを班の構成員の協同により形成されていることがうかがえる。	講義・ワークショップを班の構成員の多くが関わっていることがうかがえる。	講義・ワークショップが一部の生徒によって作られ、運営されているように見える。	手法	初めて学ぶ人に「より深く学んでみたい」と意欲を促すような講義・ワークショップの工夫が施されていた。	初めて学ぶ人にも分かりやすく取り組みやすい講義・ワークショップの工夫が施されていた。	講義・ワークショップに積極的な工夫は見られなかった。				合計
	A	B	C																								
内容①	授業内容を生徒が主体的に解釈し再構築することができている。	授業内容を生徒が理解しアウトプットすることができている。	生徒は授業内容を伝達しようとしているが、十分な理解に至っていない。																								
内容②	授業を通して生徒が一定の価値観を構築していることが垣間見られる。	授業を通して生徒が理解したことを使いこなせているが価値観の構築には至っていない。	授業を通して生徒が何を理解しているのかが伝わってこない。																								
協同性	講義・ワークショップを班の構成員の協同により形成されていることがうかがえる。	講義・ワークショップを班の構成員の多くが関わっていることがうかがえる。	講義・ワークショップが一部の生徒によって作られ、運営されているように見える。																								
手法	初めて学ぶ人に「より深く学んでみたい」と意欲を促すような講義・ワークショップの工夫が施されていた。	初めて学ぶ人にも分かりやすく取り組みやすい講義・ワークショップの工夫が施されていた。	講義・ワークショップに積極的な工夫は見られなかった。																								
			合計																								
宿題指示	なし																										

授業日	2/7(火)	3 学期授業回数	4 回目 / 全 6 回
学習目標	新明和工業株式会社を訪問し、現場の方から AI 活用の実際を学ぶ		
時間 授業内容	13:15 13:15-13:40 13:40-14:10 14:10-15:00 15:00-15:30	新明和工業 集合 会場へ移動 会社紹介 AI 活用の取り組み紹介 質疑応答	
評価方法	学びの記録		
宿題指示	アンケート ・ 新明和工業が企業としてどのように社会のなかで役割を果たそうとしているかという点について気が付いたこと、考えさせられたことを書きましょう。		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ごみ中継施設」における AI 活用事例をとおして、気が付いたこと、考えさせられたことを書きましよう。</li> <li>・フィールドスタディ全体を通して、気が付いたこと、考えさせられたことを自由に書きましよう。</li> </ul>
--	---

授業日	2/14(火)	3 学期授業回数	5 回目 / 全 6 回
学習目標			
時間			
授業内容			
評価方法			
宿題指示			

授業日	2/21(火)	3 学期授業回数	6 回目 / 全 6 回
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Chat GPT は私たちの高校生活をどのように変化させる可能性があるか」についてグループで分析、考察することができる</li> <li>・来年度の授業内容についてイメージを共有することが出来る。</li> </ul>		
時間	5 分	Chat GPT とは何か、何が出来るのか	
授業内容	30 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Chat GPT を用いて、身の回りの課題・問題を解決する具体的な場面を 1 つ設定 <ul style="list-style-type: none"> <li>a) 学業    b) 部活    c) 友人などの人間関係    d) 家庭内    e) 趣味</li> </ul> </li> <li>・ グループで分析、考察 <ul style="list-style-type: none"> <li>メリット、効果的な活用方法</li> <li>デメリット、使用上の問題点</li> </ul> </li> </ul>	
	10 分	共有：1 分間で発表	
	10 分	まとめ	
	35 分	本年度 3 年 AI 活用を担当されていた前先生から授業紹介	
評価方法	学びの記録：Chat GPT に関わる資料 5 つを読み、その内の 2 つに触れて学びの記録を記入する		
宿題指示	学びの記録		